出水期の危機管理体制に係る部局長連絡会議

令和３年５月20日(木)11時00分～
京都府職員福利厚生センター会議室

次　　第

１　今年の出水期の傾向等について

２　緊急時の連絡体制について

３　防災体制について

４　避難情報の見直しについて

出水期の危機管理体制に係る部局長連絡会議

令和3年5月20日

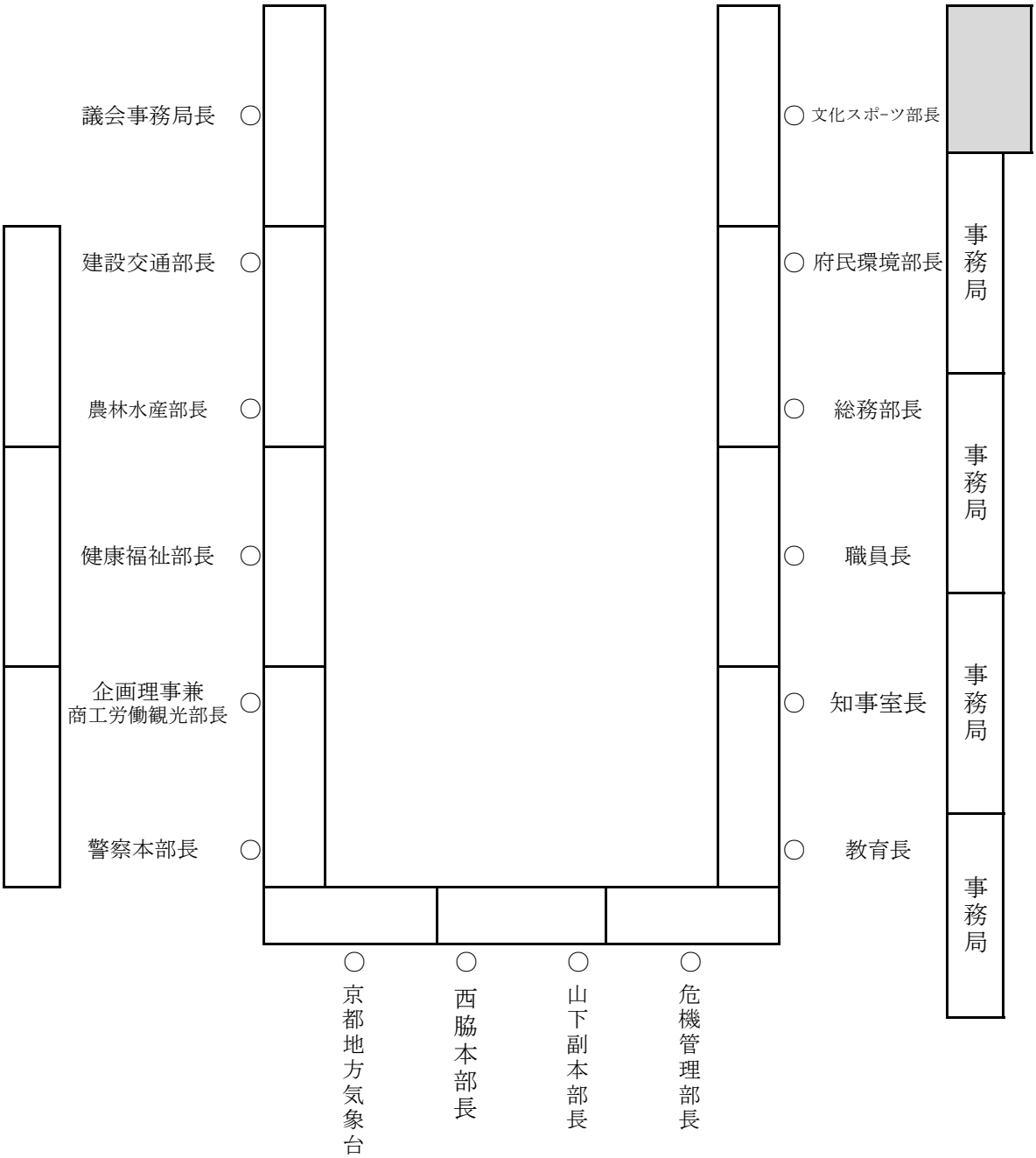
部 局 名	職　　名	氏　　名
	知事	西脇　隆俊
	副知事	山下　晃正
	企画理事兼商工労働観光部長	鈴木　一弥
知事直轄	知事室長	岡本　吉弘
知事直轄	職員長	柴田　敏雄
危機管理部	危機管理部長	壺内　賢一
総務部	総務部長	野本　祐二
府民環境部	府民環境部長	益田　結花
文化スポーツ部	文化スポーツ部副部長	植村　智豪
健康福祉部	健康福祉部長	長谷川　学
農林水産部	農林水産部副部長	小瀬　康行
建設交通部	建設交通部長	富山　英範
府議会	事務局長	田中　靖之
教育委員会	教育長	橋本　幸三
警察本部	警察本部長	上野　正史
山城広域振興局	局長	稲垣　勝彦
南丹広域振興局	局長	南本　尚司
中丹広域振興局	局長	綾城　義治
丹後広域振興局	局長	中本　晴夫
京都地方気象台	防災管理官	笠谷　博幸

出水期の危機管理体制に係る部局長連絡会議

配　席　図

令和3年5月20日（木）　11時00分～

京都府職員福利厚生センター第1～３会議室



１か月予報（令和３年５月13日発表）の解説

向こう１か月の天候の見通し
近畿地方（5月15日～6月14日）

大阪管区気象台

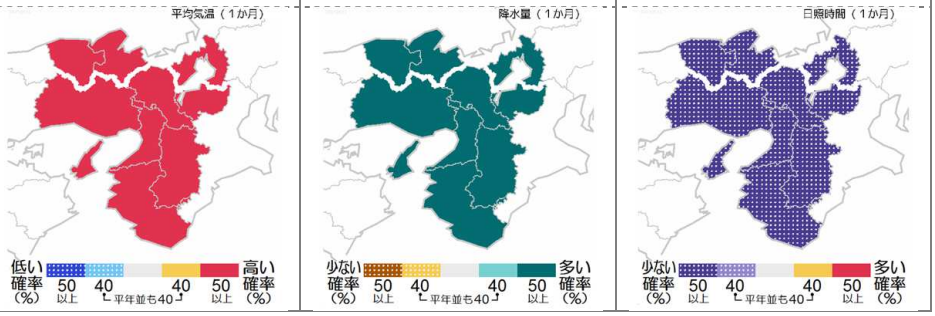
予報のポイント

- 暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう１か月の平均気温は高く、期間の前半はかなり高くなる見込みです。
- 低気圧や前線の影響を受けやすいため、向こう１か月の降水量は多く、日照時間は少ないでしょう。

１か月の平均気温・降水量・日照時間

		平均気温（1 か月）	降水量（1 か月）	日照時間（1 か月）
近畿	日本海側	低 10 並 20 高 **70**% **高い** 見込み	少 10 並 30 多 **60**% **多い** 見込み	少 **60** 並 30 多 10% **少ない** 見込み
	太平洋側		少 10 並 30 多 **60**% **多い** 見込み	少 **60** 並 30 多 10 % **少ない** 見込み

数値は予想される出現確率です



週別の天候

（1 週目） 5／15～21	（2 週目） 5／22～28	（3～4 週目） 5／29～6／11
天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線の影響を受けやすく、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。	天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線の影響を受けやすく、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。	天気は数日の周期で変わるでしょう。

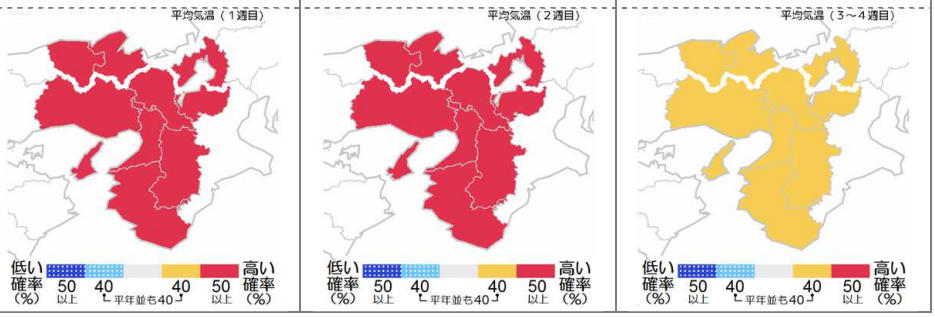
明日から１週間の、日別の天気や気温などは、週間天気予報（https://www.jma.go.jp/jp/week/）を参照してください。

季節予報は、予測の確からしさに応じて、気温や降水量などを「低い（少ない）、平年並、高い（多い）」となる確率で表しています。「平年並」がどの程度の値になるのかについては、末尾の「参考データ（平年並の範囲）」をご覧ください。
確率をその大きさに応じ言葉で解説しています。詳しくは末尾の「参考データ（確率予報の解説）」をご覧ください。

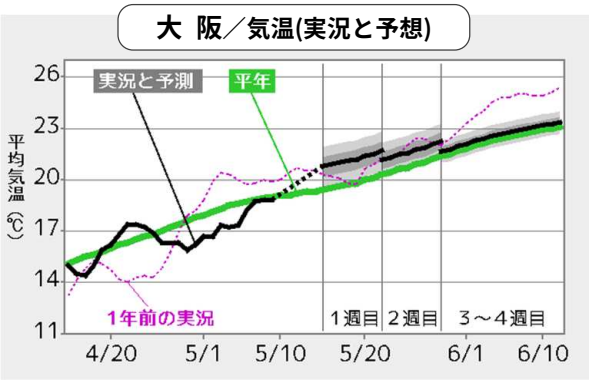
週別の平均気温

	平均気温（1 週目） 5／15～21	平均気温（2 週目） 5／22～28	平均気温（3～4 週目） 5／29～6／11
近畿地方	低 10 並 10 高 80% 高い 見込み	低 10 並 30 高 60% 高い 見込み	低 20 並 40 高 40% 平年並か高い 見込み

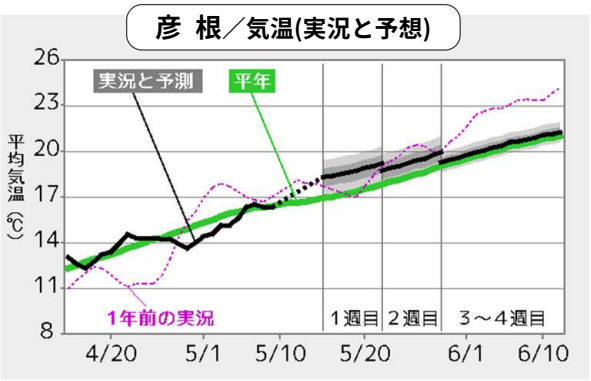
数値は予想される出現確率です



大 阪／気温(実況と予想)



彦 根／気温(実況と予想)



ほかの地点の気温（実況と予想）グラフは、
気象庁ホームページ
https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/longfcst/tjikeiretu/index.php
で公開しています。

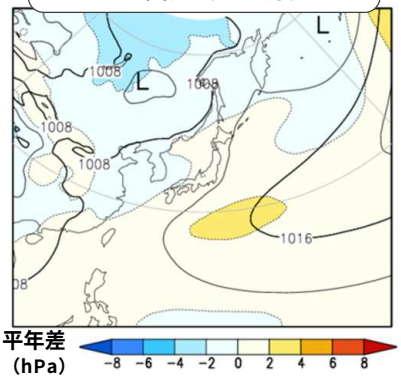
予想の気温は、週別の平均的な気温の見込みを黒い太線で表しています。信頼の程度が 40%の幅を濃い網掛けで、70%の幅を薄い網掛けで示しています。今年、昨年の実況は 7 日平均気温です。

数値予報モデルによる予測結果

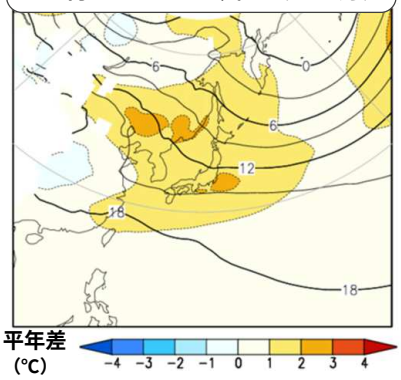
1 か月平均の地上気圧（左図）は、日本の南海上では太平洋高気圧が西に張り出す予測となっています。本州付近は相対的に気圧が低く、低気圧や前線の影響を受けやすい見込みです。

上空約 1500m の気温（右図）は、全国的に平年より高いと予想されています。

地上気圧（1 か月）



上空約 1500m の気温（1 か月）



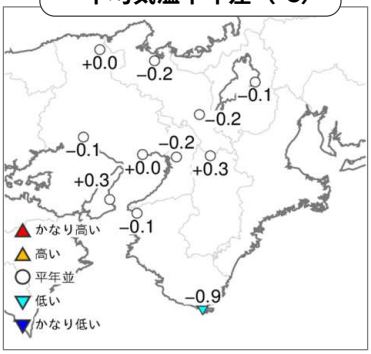
季節予報では、よく似た初期値から出発した多数の数値予報結果を利用します（アンサンブル予報）。多数の結果の平均（上図など）から大気の状態を判断し、また結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します。

最近 1 週間の天候経過（実況）　5／6～12

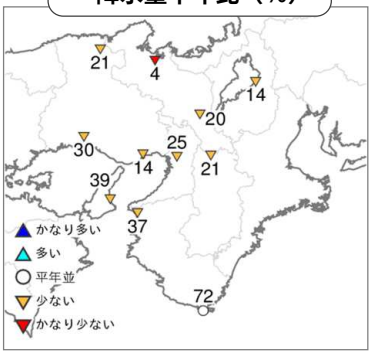
天気は数日の周期で変わりました。期間の終わりは、低気圧や前線の影響で太平洋側では大雨となった所がありました。

１週間の降水量は、日本海側で平年に比べかなり少なくなりました。

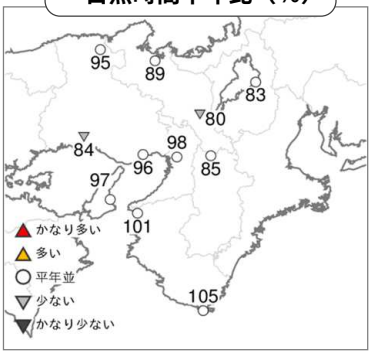
平均気温平年差（℃）



降水量平年比（%）



日照時間平年比（%）



（実況）５／６～１２		平均気温平年差	降水量平年比	日照時間平年比
近畿	日本海側	−0.1℃（平年並）	13%（かなり少ない）	89%（平年並）
	太平洋側		32%（少ない）	93%（平年並）

参考データ

●平年並の範囲

	平均気温（1 か月）	平均気温（1 週目）	平均気温（2 週目）	平均気温（3-4 週目）
近畿地方	平年差：-0.2～+0.3℃	平年差：-0.5～+0.4℃	平年差：-0.4～+0.6℃	平年差：-0.3～+0.4℃
彦根	18.7～19.3℃	16.7～17.8℃	17.7～18.9℃	19.7～20.4℃
大阪	21.0～21.6℃	19.3～20.3℃	20.3～21.4℃	21.9～22.7℃

	降水量（1 か月）	日照時間（1 か月）
近畿日本海側	平年比：74～113%	平年比：93～109%
近畿太平洋側	平年比：76～106%	平年比：96～107%
彦根	80.7～130.3mm	163.8～189.8 時間
大阪	82.2～129.2mm	166.5～187.8 時間

「平年並」の範囲は、同時期の過去 30 年間（1981-2010 年）の値から統計的に求めています。30 年間のデータの中で「高い（多い）」「平年並」「低い（少ない）」となるデータの数が等分になるように「平年並」の範囲を決めています。すなわち、30 年間の 30 個のデータのうち、値が高い（多い）方から 11～20 番目となる 10 個のデータの値の範囲を、おおよそ「平年並」の範囲としています。また、実況の分布図にある「かなり高い（多い）」などは、高い（多い）方から 3 番目までの値に相当します。

●晴れ日数と降水日数の平年値

	1 か月		1 週目		2 週目		3～4 週目	
	晴れ日数	降水日数	晴れ日数	降水日数	晴れ日数	降水日数	晴れ日数	降水日数
彦根	15.8 日	8.6 日	3.9 日	2.5 日	4.0 日	2.1 日	7.9 日	4.0 日
大阪	15.8 日	8.1 日	3.9 日	2.4 日	4.1 日	2.0 日	7.8 日	3.8 日

「晴れ日数」は「日照時間が可照時間の４０%以上」の日数であり、「降水日数」は「日降水量１mm以上」の日数です。この２つは同じ日に起こることがあるため、「晴れ日数」と「降水日数」の両方に数えられる日もあります。

●確率予報の解説（ここでは確率予報を次のような言葉で解説しています）

出現確率　（低い（少ない）：平年並：高い（多い））	解　説
高い（多い）確率が 50%以上	高い（多い）見込み
（20：40：40）	平年並か高い（多い）見込み
平年並の確率が 50%以上	平年並の見込み
（40：30：30）　（30：40：30）　（30：30：40）	ほぼ平年並の見込み
（40：40：20）	平年並か低い（少ない）見込み
低い（少ない）確率が 50%以上	低い（少ない）見込み

3 か月予報（令和 3 年 4 月 23 日発表）の解説

向こう３か月の天候の見通し
近畿地方　5 月～7 月

大阪管区気象台

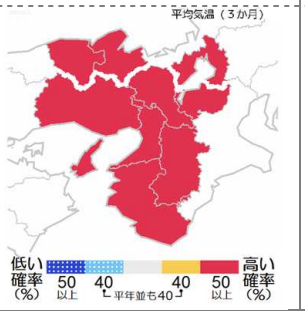
予報のポイント

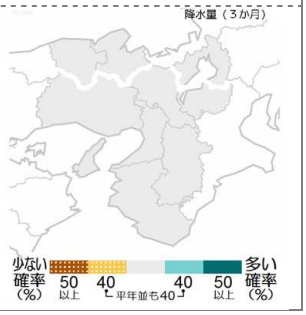
- 暖かい空気に覆われやすいため、向こう３か月の平均気温は高いでしょう。
- ６月の降水量は、湿った空気や前線の影響を受けやすいため、平年並か多いでしょう。

３か月の平均気温・降水量

		平均気温（3 か月）	降水量（3 か月）
近畿	日本海側	低 20　並 30　高 **50**% **高い** 見込み	少 30　並 30　多 **40**% **ほぼ平年並** の見込み
	太平洋側		少 30　並 30　多 **40**% **ほぼ平年並** の見込み

数値は予想される出現確率です





月別の天候

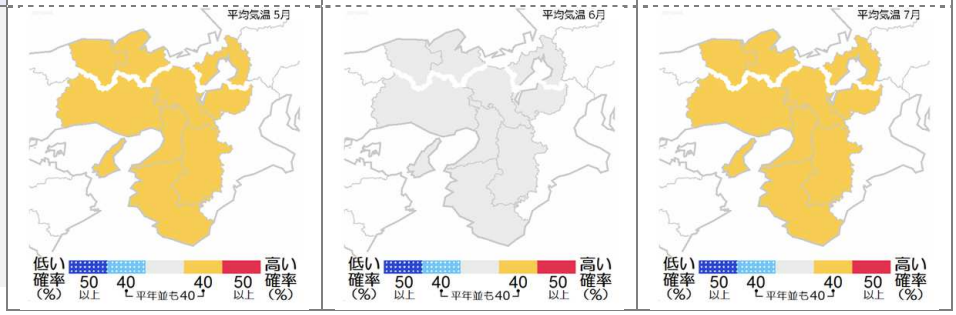
5 月	6 月	7 月
天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	湿った空気や前線の影響を受けやすく、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。	期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、高気圧に覆われやすく、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

季節予報は、予測の確からしさに応じて、気温や降水量などを「低い（少ない）、平年並、高い（多い）」となる確率で表しています。「平年並」がどの程度の値になるのかについては、末尾の「参考データ（平年並の範囲）」をご覧ください。
確率をその大きさに応じ言葉で解説しています。詳しくは末尾の「参考データ（確率予報の解説）」をご覧ください。

月別の平均気温・降水量

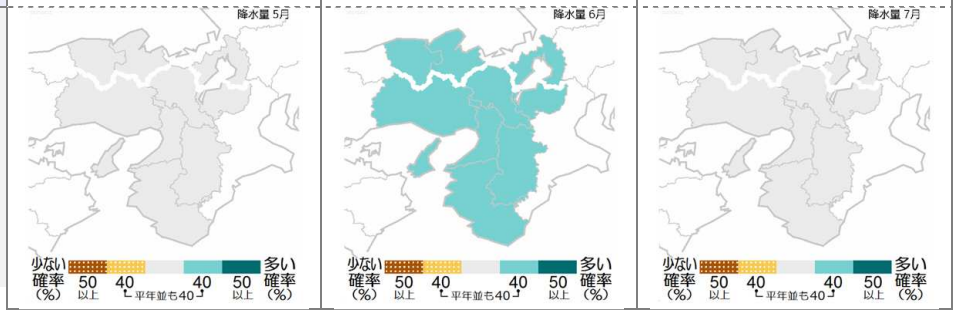
	平均気温　5 月	平均気温　6 月	平均気温　7 月
近畿地方	低 20　並 40　高 40% **平年並か高い** 見込み	低 30　並 30　高 40% **ほぼ平年並** の見込み	低 20　並 40　高 40% **平年並か高い** 見込み

数値は予想される出現確率です



		降水量　5 月	降水量　6 月	降水量　7 月
近畿	日本海側	少 40　並 30　多 30% **ほぼ平年並** の見込み	少 20　並 40　多 40% **平年並か多い** 見込み	少 30　並 40　多 30% **ほぼ平年並** の見込み
	太平洋側	少 40　並 30　多 30% **ほぼ平年並** の見込み	少 20　並 40　多 40% **平年並か多い** 見込み	少 40　並 30　多 30% **ほぼ平年並** の見込み

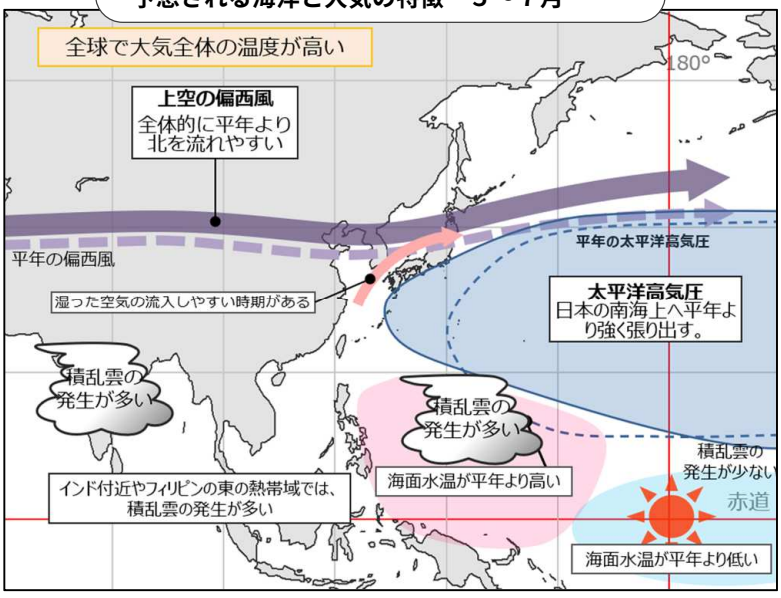
数値は予想される出現確率です



予想される海洋と大気の特徴

- 地球温暖化の影響等により、全球で大気全体の温度が高いでしょう。
- 予報期間中は、太平洋の海面水温は西部熱帯域で高い一方、中部赤道域では低い見込みです。インド付近やフィリピン付近からフィリピンの東にかけては、積乱雲の発生が多いでしょう。
- これらの影響により、上空の偏西風は、平年よりやや北を流れる見込みです。
- 太平洋高気圧は、日本の南海上への張り出しが強まるため、全国的に暖かい空気に覆われやすく、湿った空気が入りやすい時期がある見込みです。

数値予報結果をもとにまとめた
予想される海洋と大気の特徴　5～7月

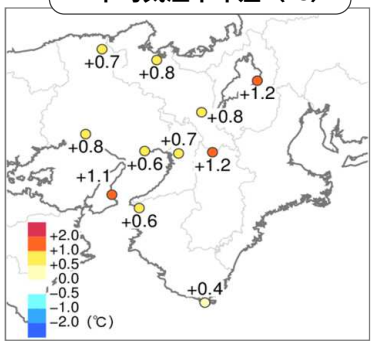


今月の天候経過（実況）　4／1～20

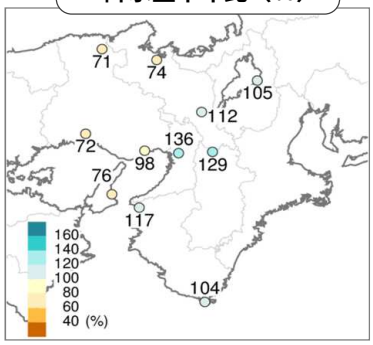
天気は数日の周期で変わり、上旬を中心に高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。上旬の中頃と中旬の終わりには、低気圧や前線の影響で大雨や荒れた天気となった所がありました。

暖かい空気に覆われやすかったため、平均気温は、上旬は平年に比べかなり高くなりました。

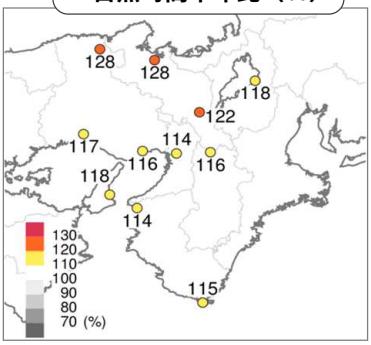
平均気温平年差（℃）



降水量平年比（%）



日照時間平年比（%）



（実況）4/1～20		平均気温平年差	降水量平年比	日照時間平年比
近畿	日本海側	+0.8℃	83%	125%
	太平洋側		106%	117%

参考データ

●平年並の範囲

	平均気温 3 か月	平均気温 5 月	平均気温 6 月	平均気温 7 月
近畿地方	平年差：-0.3～+0.2℃	平年差：-0.4～+0.3℃	平年差：-0.3～+0.3℃	平年差：-0.3～+0.4℃
彦根	21.0～21.7℃	16.7～17.6℃	21.0～21.8℃	25.2～26.0℃
大阪	23.3～23.8℃	19.2～20.0℃	23.3～23.8℃	27.0～27.8℃

	降水量 3 か月	降水量 5 月	降水量 6 月	降水量 7 月
近畿日本海側	平年比：90～109%	平年比：83～104%	平年比：86～107%	平年比：78～120%
近畿太平洋側	平年比：90～110%	平年比：79～110%	平年比：88～106%	平年比：76～108%
彦根	473.6～620.2mm	113.1～154.7mm	147.1～220.0mm	130.1～287.2mm
大阪	428.8～519.7mm	107.1～160.7mm	134.3～204.2mm	119.1～166.2mm

「平年並」の範囲は、同時期の過去 30 年間（1981-2010 年）の値から統計的に求めています。30 年間のデータの中で「高い（多い）」「平年並」「低い（少ない）」となるデータの数が等分になるように「平年並」の範囲を決めています。すなわち、30 年間の 30 個のデータのうち、値が高い（多い）方から 11～20 番目となる 10 個のデータの値の範囲を、おおよそ「平年並」の範囲としています。

●晴れ日数と降水日数の平年値

	5 月		6 月		7 月	
	晴れ日数	降水日数	晴れ日数	降水日数	晴れ日数	降水日数
彦根	17.2 日	10.4 日	13.1 日	11.8 日	14.6 日	12.3 日
大阪	17.7 日	10.0 日	13.7 日	11.2 日	16.5 日	9.9 日

「晴れ日数」は「日照時間が可照時間の４０％以上」の日数であり、「降水日数」は「日降水量１mm以上」の日数です。この２つは同じ日に起こることがあるため、「晴れ日数」と「降水日数」の両方に数えられる日もあります。

●確率予報の解説（ここでは確率予報を次のような言葉で解説しています）

出現確率　（低い（少ない）：平年並：高い（多い））	解　説
高い（多い）確率が 50%以上	高い（多い）見込み
（20：40：40）	平年並か高い（多い）見込み
平年並の確率が 50%以上	平年並の見込み
（40：30：30）　（30：40：30）　（30：30：40）	ほぼ平年並の見込み
（40：40：20）	平年並か低い（少ない）見込み
低い（少ない）確率が 50%以上	低い（少ない）見込み

暖候期予報の見直しについて

新しい予測資料を踏まえ暖候期の天候について検討しましたが、２月２４日に発表した暖候期予報の夏（６～８月）の気温、降水量に変更はありません。梅雨の時期の降水量については、この３か月予報をご利用ください。

今後の気象シナリオ（5月20日10時現在　京都地方気象台発表）

			20日					21日							
			9-12時	12-15時	15-18時	18-21時	21-24時	0-3時	3-6時	6-9時	9-12時	12-15時	15-18時	18-21時	21-24時
			昼前	昼過ぎ	夕方	夜のはじめ頃	夜遅く	未明	明け方	朝	昼前	昼過ぎ	夕方	夜のはじめ頃	夜遅く
京都府北部	大雨（浸水）（ミリ）		1	10	20	15★	15	25	25	25	20	1	1	1	1
	大雨（土砂）					★									
	暴風（メートル）	陸上	5⇦	6⇦	7↖	7↖	7↖	7⇧	7⇧	7⇧	7⇨	8⇨	8⇨	8⇨	6⇨
		海上	8⇦	8⇦	10↖	10↖	10↖	10⇧	10⇧	10⇧	10⇨	13⇨	13⇨	13⇨	10⇨
	波浪（メートル）		0.5	0.5	1	1	1	1	1	1	1.5	2	2.5	2.5	2.5
	雷			注	注	注	注	注	注	注	注				
京都府南部	大雨（浸水）（ミリ）		5	15	25	20★	20	30	30	30	25	10	1	1	1
	大雨（土砂）					★									
	暴風（メートル）		4⇦	6⇦	7⇦	7↖	5↖	6⇧	6⇧	5↗	5↗	5↗	5↗	4↗	3↗
	雷			注	注	注	注	注	注	注	注				

警報級　注意報級

★は注・警報発表のおおよそのタイミング

＜気象要因と注警報の見通し＞

・20日は、前線や湿った空気の影響で雨が降り、昼過ぎから雷を伴う所がある見込み。
・21日は、前線や湿った空気の影響で昼過ぎにかけて雨や雷雨となり、南部では朝にかけて激しい雨の降る所がある見込み。
・20日昼過ぎから21日夕方にかけて、落雷や突風、急な強い雨に注意。
・21日未明から朝にかけて低い土地の浸水に、21日未明から21日夕方にかけては土砂災害に注意。
・21日未明から夕方にかけて、「大雨」についての早期注意情報（警報級の可能性）「中」を発表中。

＜24時間降水量（20日12時～21日12時）＞

北部：100ミリ　　南部：120ミリ

＜サブシナリオ＞

・21日未明から夕方にかけて、前線の活動が予想より活発となった場合は、大雨警報（浸水害・土砂災害）や洪水の注意報や警報を発表する可能性がある。
・21日は、北部に強風や波浪の注意報を発表する可能性がある。

＜その他＞

・「大雨に関する京都府気象情報」を発表中。次回は20日16時頃に発表の予定。

資料1-3

資料２

京都府危機管理緊急参集チーム設置運用要綱

（平成30年６月１日施行）
（平成31年４月１日一部改正）
（令和元年９月１日一部改正）
（令和元年９月１日一部改正）
（令和２年４月１日一部改正）
（令和３年４月１日一部改正）
（令和３年５月20日一部改正）

１　趣　　旨

関係部局等の幹部職員で構成する京都府危機管理緊急参集チーム（以下、「緊急参集チーム」という。）を設置し、京都府内で災害等危機事象による被害が発生するおそれがあるとき又は被害発生の初期段階から災害等応急対策の準備に着手することにより、災害等対策の迅速・円滑な実施を図る。

２　組織編成

(1)　緊急参集チームは、危機管理部長（新型コロナウイルス感染症対応については、危機管理監とする。以下同じ。）及び次表に掲げる職にある者で構成する。

危機事象 / 部局等	風水害	地震	原子力災害	重大事故	重大事件	感染症	家畜伝染病等
知事直轄（職員長）	職員長	職員長	職員長	職員長	職員長	職員長	職員長
危機管理部	防災監 副部長	防災監 副部長	防災監 副部長	防災監 副部長	防災監 副部長	防災監 副部長	防災監 副部長
府民環境部	部長 公営企業管理監 副部長 技監	部長 公営企業管理監 副部長 技監	部長 公営企業管理監 副部長 技監	部長 副部長	部長 副部長		
健康福祉部	部長 保健医療対策監 技監 副部長	部長 保健医療対策監 技監 副部長	部長 保健医療対策監 技監 副部長	部長 保健医療対策監 技監 副部長	部長 保健医療対策監 技監 副部長	部長 保健医療対策監 技監 副部長	部長 保健医療対策監 技監 副部長
農林水産部	部長 副部長 技監	部長 副部長 技監	部長 副部長 技監	部長 副部長 技監		部長 副部長 技監	部長 副部長 技監
建設交通部	部長 副部長 技監	部長 副部長 技監	部長 副部長 技監	部長 副部長 技監			部長 副部長 技監
警察本部	警備部長 警備部次長	警備部長 警備部次長	警備部長 警備部次長	交通部長 交通部次長 警備部長 警備部次長	生活安全部長 生活安全部次長 警備部長 警備部次長	警備部長 警備部次長	警備部長 警備部次長
教育庁	学校危機管理監	学校危機管理監	学校危機管理監	学校危機管理監	学校危機管理監	学校危機管理監	学校危機管理監

※　農林水産部の参集については、重大事故にあっては海上における石油流出事故、危険物等災害及び海難事故並びに山林火災に係るもの、感染症にあっては人獣共通感染症に係るものに限る。

※　上記のほか、危機事象の原因、場所等の状況に応じ、その他の関係部局の職員も参集させることができる。

※　武力攻撃事態やテロ等緊急対処事態については、国民保護法に基づき対処する。

(2)　危機管理部長は、緊急参集チームを代表し、その業務を統括する。

(3)　危機管理部長に事故あるときは、危機管理部防災監又は危機管理部副部長が、危機管理部長の職務を代理する。

3　活 動 内 容

緊急参集チームは、次の業務を行う。

①　迅速かつ円滑な被害状況の情報共有及び応急措置

②　災害対策本部設置等の協議

③　その他災害予防及び被害軽減に係る必要な措置

4　参集及び招集

(1)　参集及び招集は、下記の種別に応じて、それぞれの基準によるものとする。

風　水　害	地　　震	原子力災害	その他危機事象
【自動参集】 ・府内全域又は一部の地域に特別警報が発表されたとき ・府域に避難指示が発令されたとき 【招　　集】 ・被害が発生するおそれがあるとき、危機管理部長が判断 〔判断基準の例〕 ・台風接近に伴う大雨・洪水警報又は記録的短時間大雨情報が発表され、かつ、氾濫注意水位超過（国管理河川を含む。）又は土砂災害警戒情報が発表されたとき など	【自動参集】 ・府域で震度５強の地震が観測されたとき ・府域で津波警報又は大津波警報が発表されたとき 【招　　集】 ・震度５弱以下でも被害状況に応じて、危機管理部長が判断	【招　　集】 ・警戒事態に該当する原子力発電所施設の重要な故障等が発生したとき ・上記以外の場合でも、状況に応じて、危機管理部長が判断	【招　　集】 ・状況に応じて、危機管理部長が判断

(2)　危機管理部長は、上記の参集及び招集基準に関わらず、その被害状況等に応じて緊急参集チームを招集することができる。

(3)　緊急参集チーム員は、自動参集の基準に達したとき又は招集の連絡を受けたときは、直ちに本庁（警察本部にあっては警察本部庁舎、教育庁にあっては京都産業大学むすびわざ館）に参集するものとする。

なお、この場合、複数のチーム員を置く部局にあっては、いずれかの者が参集するものとし、その選定については部局等が別に定める。

また、緊急参集チーム員が参集できない場合は、当該部局等の管理職員が代行するものとする。

(4)　自動参集基準に達したとき又は危機管理部長の判断により招集を行うときは、防災宿日直又は災害警戒本部が、緊急参集チーム員に対し職員一斉呼出システムで連絡を行うものとする。また、併せて広域振興局にその旨を通知するものとする。

(5)　緊急参集チーム員が参集したときは、各自の執務室を基本に活動するものとする。

(6)　危機管理部長は、必要に応じて、緊急参集チーム内の情報共有及び協議を行うための会議を招集することができる。

5　活動の終期

緊急参集チームの活動の終期は、危機管理部長がチーム員の意見を聴取し、判断する。

6　研修・訓練

業務を円滑に行うため、必要な研修及び訓練を実施する。

7　そ　の　他

(1)　組織編成については、定期人事異動の都度見直す。

(2)　この要綱に定めのない事項については、危機管理部長が関係部局等と協議する。

（附則）

この設置運用要綱は、平成３０年６月１日から施行する。

（附則）

この設置運用要綱は、平成３１年４月１日から施行する。

（附則）

この設置運用要綱は、令和元年９月１日から施行する。

（附則）

この設置運用要綱は、令和２年４月１日から施行する。

（附則）

この設置運用要綱は、令和３年４月１日から施行する。

（附則）

この設置運用要綱は、令和３年５月２０日から施行する。

資料３

令和３年度の梅雨期及び出水期における防災体制について

令和３年５月２０日
建　設　交　通　部

１　建設交通部（土木事務所等を含む）の防災体制

◇災害警戒時（風水害・地震等）の待機・動員体制（本庁・土木事務所）の確保　・・・**実施済み**
- ・災害対策（警戒）本部設置時の動員（配備）体制
- ・水防待機要領の周知及び待機体制の構築

◇各土木事務所の緊急対応業者及び排水ポンプ車操作委託業者の確保　・・・**手続き中**
※業者決定までの間は前年度業者が引き続き対応

◇土木事務所等管理の各施設、資機材の点検　・・・**指示済み**
- ・道路法面、アンダーパス、堤防、護岸、樋門、ポンプ場、いろは呑龍トンネル等
- ・水防資材、排水ポンプ車（山北１、山南１、中丹東１、中丹西１）等

２　国、市町村及び関係防災機関との連携

◇防災情報等共有会議の開催（市町村、気象台、自衛隊等の防災担当者）　・・・**実施済み**

◇関係機関との情報連絡体制の構築・再確認　・・・**指示済み**
- ・各土木事務所における管内市町村の首長、防災部局とのホットライン
- ・災害協定に基づく連携・連絡体制（建設業協会、測量設計業協会等）
- ・洪水予報、水防警報、土砂災害警戒情報等の防災関係情報連絡体制
- ・TEC-FORCE応援要請に関する連絡体制

３　道路通行規制等の実施体制

◇国、ＮＥＸＣＯ西日本及び近接府県との通行規制等に関する連絡体制　・・・**確認済み**

◇府管理道路における通行規制体制　・・・**確認済み**
- ・異常気象時（連続雨量基準超過時）の通行規制体制
- ・由良川沿川、国道１６３号等、路面冠水の恐れがある路線の通行規制体制

４　ダム（大野ダム、畑川ダム等）における準備状況

◇事前放流、異常洪水時防災操作等の実施体制、連絡体制の点検　・・・**確認済み**

〔参考〕現在のダム貯水位の状況

大野ダム：常時満水位(EL.173m)から夏期制限水位(EL.157m)へ貯水位低下操作完了

畑川ダム：洪水調節用のゲートを持たない自然流下型のダムでありダム操作は行わない。

日吉ダム、天ヶ瀬ダム、高山ダム：平常時最高貯水位から洪水貯留準備水位へ低下させる放流操作を実施している。なお、洪水が予測される場合は、速やかに水位を低下させる予定。

５　工事現場における防災措置等

◇府発注工事及び許認可工事の施工者へ大雨、出水、強風等に備えた点検と必要な対策を講じる。
※非出水期工事の現場について重点的に確認中　・・・**指示済み**

６　その他

◇市町村への災害復旧事業に係る支援
- ・「市町村災害復旧サポーター」派遣制度（令和３年４月運用開始）　・・・**実施済み**

資料４

令和3年5月20日から

警戒レベル 4

避難指示（ひなんしじ）で必ず避難

避難勧告（ひなんかんこく）は廃止です

警戒レベル	新たな避難情報等		これまでの避難情報等
5	災害発生又は切迫	緊急安全確保※1	災害発生情報（発生を確認したときに発令）
	～～～<警戒レベル４までに必ず避難！>～～～		
4	災害のおそれ高い	避難指示※2	•避難指示（緊急） •避難勧告
3	災害のおそれあり	高齢者等避難※3	避難準備・高齢者等避難開始
2	気象状況悪化	大雨・洪水・高潮注意報（気象庁）	大雨・洪水・高潮注意報（気象庁）
1	今後気象状況悪化のおそれ	早期注意情報（気象庁）	早期注意情報（気象庁）

※１ 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル５は必ず発令される情報ではありません。

※２ 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されることになります。

※３ 警戒レベル３は、高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

警戒レベル5は、
すでに安全な避難ができず
命が危険な状況です。
警戒レベル5緊急安全確保の
発令を待ってはいけません！

避難勧告は廃止されます。
これからは、
警戒レベル4避難指示で
危険な場所から全員避難
しましょう。

避難に時間のかかる
高齢者や障害のある人は、
警戒レベル3高齢者等避難で
危険な場所から避難
しましょう。

内閣府（防災担当）・消防庁